

# 今月の星空



川口市立科学館  
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

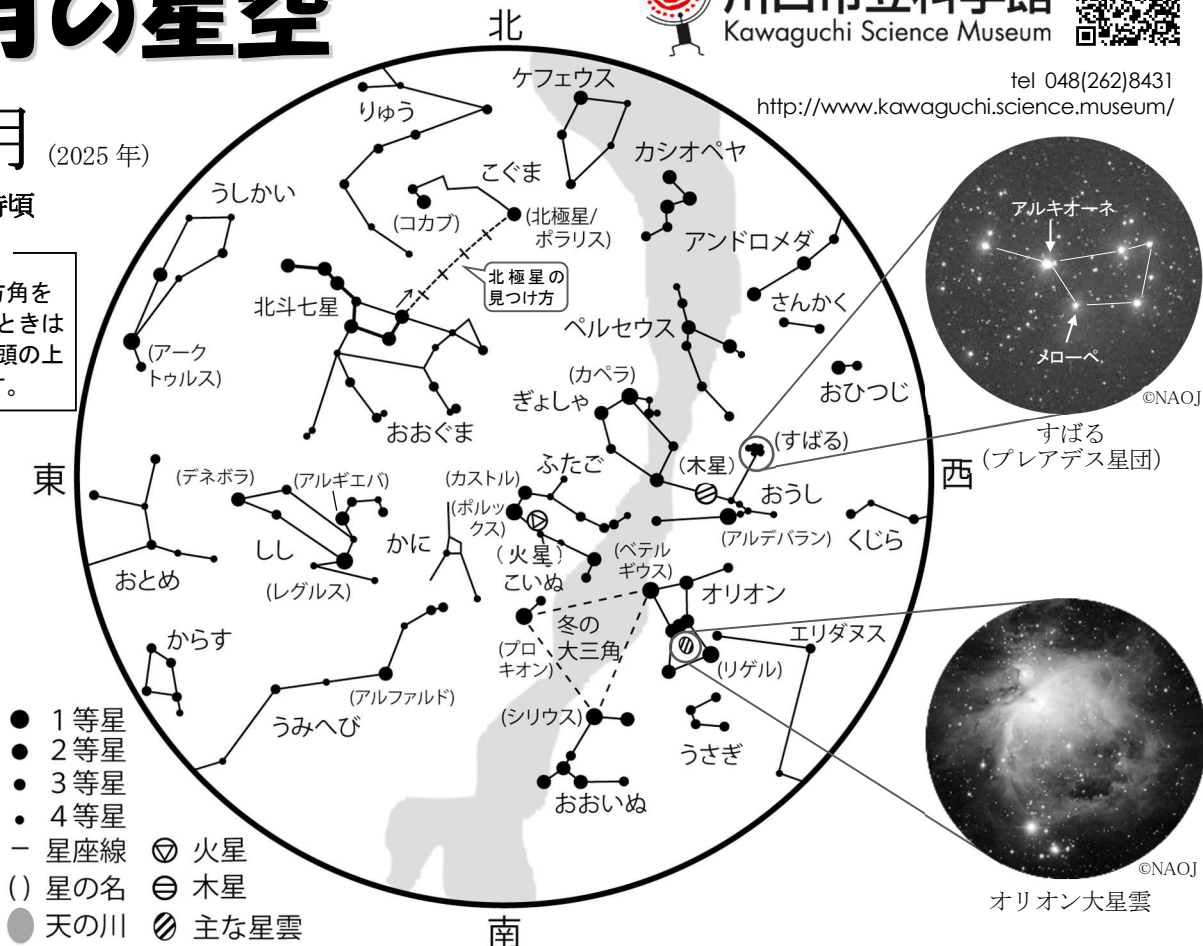
http://www.kawaguchi.science.museum/

3月 (2025年)

中旬 20時頃

## 星図の見方

自分が見ている方向を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。



月 齢 ● 上弦 7日、○ 満月 14日、◐ 下弦 22日、● 新月 29日

惑星情報 水星 日の入後 西(うお座 -1→0等)※4日~12日頃 金星 日の入後 西(うお座 -5等)※上旬まで  
火星 夜のはじめ頃 南→南西(ふたご座 0等) 木星 夜のはじめ頃 西(おうし座 -2等)

## ☆昇る春の星座と沈む金星

少しずつ寒さが和らぐ季節となり、冬の星座が西に傾く一方で、東の空には、しし座やおおぐま座、うみへび座が昇り、夜空にも“春の(星座たちの)足音”が聞こえるようです。目立つ星は、星図のとおり、しし座のレグルス(1.4等)やデネボラ(2.1等)、うみへび座のアルファルド(2.0等)、そして、おおぐま座の「北斗七星」です。明るい星が多い冬の星座のように、数珠つなぎに星をたどることは難しいですが、市街地から見るのであれば、星の数が少ない分、明るい星は見分けやすいでしょう。

昨年秋ごろから夕方の西の空で目立っていた金星(「宵の明星」と呼ばれる)は上旬までが見頃です。21日の内合(太陽と同方向に位置する)を境に、明け方の東の空に移ります(「明けの明星」と呼ばれる)。再び夕方の西の空で見つけられるようになるのは、約1年後の2026年2月以降です。

## ☆5日 すばる食

5日22時頃から、西の低い空で、月(月齢5.5)が「すばる(プレアデス星団)」を隠す「すばる食」が起こります(右図参照)。すばるは、約3等の「アルキオーネ」をはじめ、その他4等以下の星から成る星団で、空の暗い所では肉眼でも6個ほどが見つけられます。すばる食のように、まぶしい月が重なる場合、特に肉眼で星団を見ることは難しくなるため、観察には双眼鏡や望遠鏡が必要です。川口市では食の途中、0時前に月が沈みます。22時台であれば、高度が10度以上あるため観察しやすいでしょう。

## ワンポイント~意外と小さい(?)月~

月がすばるを隠すといっても星団全体を隠すことはできません。月の見かけの大きさ(視直径)は約30分角(0.5度)※です。一方、すばるの視直径は約100分角(1.67度)。月の約3倍の広がりがあります。ちなみに、オリオン大星雲は、約60分角(1度)で月の2倍です。改めて夜空で月の大きさを確かめてみましょう。※腕を伸ばして持った5円玉の穴と同じ大きさ

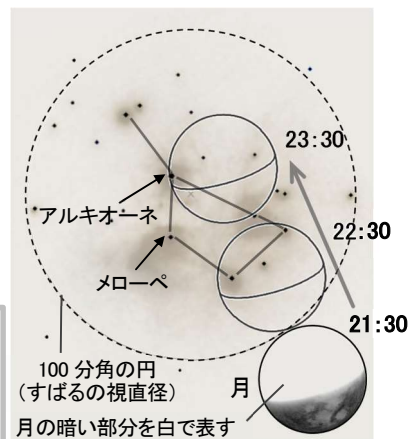


図 3月5日「すばる食」の経過  
※月や星は白黒を反転させて表示  
(AstroArts/ステラナビゲータを元に作成)